

イタリア語万華鏡

[古浦敏生](#)

I 世界の言語の系統的分類

世界中には 8000 ともいわれる数の言語が存在する。また、かつて存在し死滅した言語も少なくない。それらの系統(=親子関係)を分類して表示し、我々に馴染みの日本語や英語、また、今回ピックアップするイタリア語の位置を確認する。(受講生には「言語系統表」(B4 版 1 枚)を配布したが、本稿では割愛する)

II イタリア半島における諸民族と言語

ローマ帝国成立以前、イタリア半島には多くの民族が存在し、それぞれ別々の言語を使用していた。これらの民族のうち、ラティウム地方の住民であったラテン人は、紀元前 6 世紀前後に都市国家ローマを形成した。そして、彼らは近隣諸民族を征服・混合しつつ領土を拡大し、紀元後 2 世紀初頭には、地中海世界全体をラテン語圏にする大帝国を築いた。その結果、ラテン語に滅ぼされた言語(エトルスク語、ウンブリア語など)もある。やがてローマ帝国の衰退(西ローマ帝国は紀元後 476 年滅亡)とともに、イタリア半島にはゴート人やアラブ人などの異民族が侵入し、さまざまな言語が持ち込まれた。



TSS 文化大学で講演する筆者

III イタリア共和国の言語状況

イタリア共和国(1861 年国家統一)で現在使用されている言語は、(話し言葉のラテン語に由来

する)イタリア語だけではない。北部国境地域では、イタリア語とは系統の異なるスロヴェニア語やドイツ語も用いられ、半島南部地域でも系統の異なるアルバニア語やセルビア・クロアチア語などの言語離島が存在する。また、サルデーニャ島の言語は、イタリア語のサルデーニャ方言ではなくて、(イタリア語の姉妹語とされる)サルデーニャ語である。

IV イタリア語万華鏡

ここからは、筆者の若かりし頃の留学経験や、その後のイタリア語研究の合間に気づいた「こぼれ話」を、順不同に並べたものである。講義では8項目ほどお話ししたが、本稿では4項目に絞ることとする。

(1) レストランのくせに「食わさん」とは!

東広島市西条町にはかなり以前からイタリア料理店があった。広島市から広島大学が移転して以来、その数はさらに増えた。しかし、同じ東広島市ではあっても、筆者が住んでいる八本松町には、残念ながら、長年この種の店はなかったのである。

ところが、数年前、近所の老人たちが“八本松にもおいしいイタリア料理店ができた”と噂していた。筆者が“何という店ですか?”と尋ねると、“変な名前なのだ。レストランのくせに「食わさん」とは!”と言う。不審に思い、場所を確認して出掛けると、アックア・サンタ ACQUA SANTA「聖なる水」の看板があった(画像参照)。老人はクアサン QUASAN という下線部の音だけを記憶していたらしい。(acqua は「水」、santa は「神聖な」という形容詞。イタリア語では一般に形容詞は名詞の後ろに置かれる)



(2) ティラミス

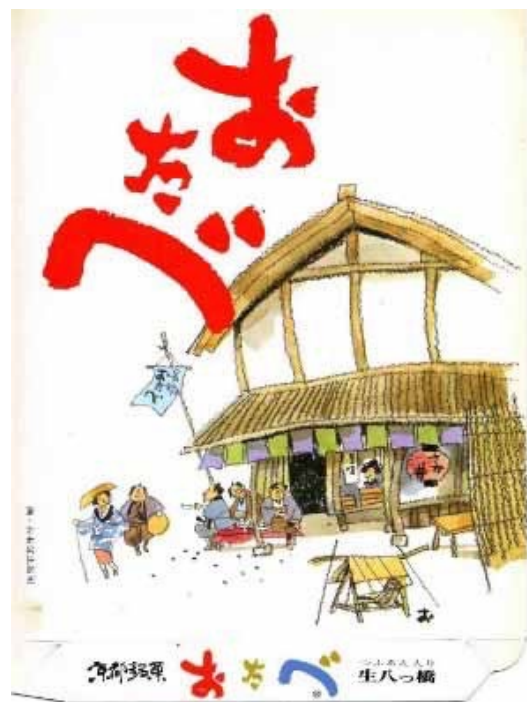
女子大生に人気のティラミス(tiramisù)。これもイタリア語である。チーズの中で最も脂肪分の多いマスカルポーネに、砂糖・卵黄・生クリーム・ココアパウダーを加えて冷やし、固めたケーキ

のこと。カロリーが非常に高く、ダイエット中の方にはお奨めしかねる。

このティラミス、「ティーラ(tira)」と「ミ(mi)」と「ス(su)」の三つの要素から成り立っている。「ティーラ」は「お前は引っ張れ!」、「ミ」は「私を」、「ス」は「上へ」の意で、全体としては“お前は私を上へ引っ張れ!”すなわち、“(私は今からお前(=ティラミス)を食べるから)、お前は私を元気にしてくれ!”という意味の命令文である。

さて、命令文がお菓子の名前として採用されているのは珍しいことである。日本のお菓子をいろいろ思い浮かべてみても(白い恋人、東京バナナ、赤福、柚餅子、キビ団子、一六タルト、もみじ饅頭、ひよこ--)、この種の名前はなかなか見つからない。しかし、「おたべ」というのがあった。京都銘菓、つぶ餡入り生八つ橋である。

ここで、イタリア語のティラミスと日本語の「おたべ」を比較してみよう。ともに命令文であるという点は共通している。しかし、ティラミスの場合はお菓子に向かったの命令であるのに対して、「おたべ」の場合は食べる人間に向かったの命令である。文化の差はこのようなところにも現われている。



(3) コカコーラ

フィレンツェでは標準語の力行音が八行音になる。たとえば、カーサ casa 「家」はハーサと発音される。この現象は、トスカーナ州(フィレンツェが州都)に特徴的な方言発音である。古代ローマ人がトスカーナを征服する以前にこの地に住んでいたエトルスク人の言語(エトルスク語)の影響らしい。

筆者がフィレンツェ大学に留学していた頃、たまたま「ダンテの家(=詩人ダンテの生家があった付近に建てられた記念館)」で知り合った男性にヴェッキオ宮の地下食堂を紹介された。メジチ

家の居城であったヴェッキオ宮は、現在もフィレンツェ市役所として使用されているのであるが、この食堂は市役所職員のための格安レストランであった。市の職員でもない筆者がこのような場所に入りしてよいものかと、最初は遠慮がちであったが、慣れるにつれて従業員とも親しくなった。

「コカコーラ」を注文する地元の人々の発音は「ホハホーラ!」であった。そこで、筆者も「ホハホーラ!」と言って注文すると、ボーイは「コカコーラ!」と言って筆者の発音を訂正してくれた。日本の留学生に間違った発音を覚えさせまいとの配慮だったのであろう。



中央時計塔のある建物がヴェッキオ宮(13~16世紀建立)

(4) 日独伊三国同盟...イタリア人は腰抜けだったのか?

大日本帝国の軍部・独裁政権は、1940年9月、ナチス・ドイツのヒトラーとイタリア・ファシズムのムッソリーニと手を組んで、いわゆる日独伊三国同盟を成立させた。そして、あの痛ましい太平洋戦争が1941年12月に勃発したのであった。1943年9月には真っ先にイタリアが降伏した。次いで1945年5月にドイツが降伏した。最後まで戦った日本は1945年8月に降伏した。

日本の敗戦時、筆者はまだ国民学校(=小学校)の1年生であったが、日本が負けてくやしかった記憶がある。当時の大人たちから聞いた話では、“イタリア人は腰抜けだったから、早々と無条件降伏をした。イタリア人は頼り甲斐のない国民である”といった評価であった。

イタリア留学が決まったとき、筆者はこの評価をイタリア人には秘しておこうと思った。ところが、フィレンツェの下宿のお爺さんから“われわれイタリア市民は、ナチス・ドイツに追随する無謀な政権に対抗してレジスタンス運動を起こした。統一戦線を組み、悪の根源であるファシスト

政権を倒したのだ”と聞かされた(主犯ムッソリーニはコモ湖畔で処刑された)。筆者はその場では黙ってうなずいただけであったが、心中おだやかではなかった。“そうだったのか!日本は不条理な軍事政権に振り回されて、原爆が落とされるまで、ファシスト政権を倒すことができなかったのだ”ということに気づき、深く恥じたのであった。イタリア人は腰抜けではない!!

付記

拙稿「イタリア語万華鏡」は、広島日伊協会のホームページに 42 項目が掲載されています。インターネットで「イタリア語万華鏡 古浦敏生:広島日伊協会」を検索してください。

(本稿は、2013年5月21日に行われた TSS 文化大学における講演の概要です。)